



クロサイの母と子

クロサイのマキとメトロの間にメスの赤ちゃんが誕生したことはホームページでもお伝えしました。生まれたのは3月2日。出産することは前もってわかっていたので、寝室にわらを敷くなどして備えていました。父親のメトロも大事に備え寝室だけでなくグランドもマキと分けていました。動物たちは夜から朝にかけて出産することが多いのですが今回も、朝、飼育員が出勤すると既に赤ちゃんは産まれていました。連絡を受け私も寝室に入ると、赤ちゃんはおっぱいを飲み終え、スヤスヤと眠っていました。そばにはマキが静かにたたずんでいました。それは、この上なく平和で、穏やかで、幸せに包まれた光景でした。そして、何故かドラマのシーンによく出てくる「妻の出産時に駆けつける夫」のイメージと重なり、思わず「マキ、よくがんばったな」と声をかけそうになりました。しかし、そんなこちらの思い入れとは関係なくマキはわが子を守るとうする本能からか、不用意に寝室へ入ろうものなら、こちらを威嚇し、向かってきます。力強い母子の絆を見せつけられる瞬間です。そんなマキたち親子もいずれグランドデビューをしなければなりません。平成21年の3月上旬は寒い日や天候の悪い日が多かったためグランドに出す日をためらっていたのですが、徐々に晴天に恵まれ始めた3月中旬頃から少しずつ外へ出し始めました。寝室から出ると、赤ちゃんは外へ出るのを待ち焦がれていたかのように元気よくお母さんとグランドを走り回ります。マキも日頃はゆったりゆったり歩いているのですが、本当にスタスタと走り回るので。すると、娘もそのあとをチョコマカチョコマカと走り回ります。推定1トンはあろうかという巨体とまだツノのないミニチュアのふたりがスタカスタカ走ってる光景はほほえましくもありおかしくもあります。マキはわが子にグランドを走ることで行動範囲や攻撃時の闘争法などを教えているのだと思います。実際、野生ではあの巨体でも時速45キロメートルのスピードで突進することが確認されています。意外と足腰の筋肉は発達しているのです。

クロサイはアフリカでも生息数が減っており絶滅の恐れが高い種です。その大きな原因は、サイの角が漢方薬や媚薬などの原料や短刀の柄などに利用されることから密漁が後を絶たないためといわれています。食料需給のために飼養される家畜と違って、人間の欲望のために野生の動物を狩猟すればまたたくまにその数が減っていくことは明らかです。国際自然保護連合（IUCN）では絶滅が危惧される野生生物の保護に取り組んでいますが、何とか人類の英知を集め少なくとも人為的な理由での生物種の減少だけはくいとめたいものです。

そんな世の中の流れとは無縁に、今日も母親のマキと娘は、桜の咲きはじまった園内で平和に暮しています。（そういえば、マキもこの動物園で生まれたのでした。）



いつもお母さんといっしょ

平成21年4月4日 園長 生江信孝



2009年4月4日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)